

令和6年度 第7回 朝日丘地域会議 会議録

■日 時 令和6年11月14日(木) 午後6時30分～8時00分

■場 所 朝日丘交流館 2階 21会議室

■出席者 <委 員> 大岩 高也 日高 博憲 北村 親樹
都築 正孝 永田 達也 縄村 恵子
日高 克二 深井 弘司 山本 チエ子
永山 哲 鈴木 哲也
<欠席者> 春日井 輝政 北垣 啓子 塩谷 耕一
<市関係職員> 松井 雅貴(交通政策課 主査)
<事務局> 杉浦 智文(挙母事務所長) 塚田 征弘(地域支援課 担当長)
田中 和香(地域支援課 書記)

- 次 第
- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 地域課題についてー交通関係の勉強会ー
 - 4 その他
 - (1) 移動販売について
 - (2) 中学生の授業見学について

■議 事 (要約)

3 地域課題についてー交通関係の勉強会ー

地域住民で助け合う「共助交通」について、交通政策課の松井主査から説明を受けた。
(詳細は裏面)

4 その他

(1) 移動販売について

事務局から移動販売について説明。

- ・現在朝日丘地区で実施する事業者への支援はないが、移動販売を実施している事業者はいる。
- ・前林の地域課題解決事業で移動販売「ふらここマーケット」を実施しているので、参考になればよい。

(2) 中学校の授業見学について

11月6日(水)に、朝日丘中学校の3年生の授業見学、発表内容について会長から説明した。

前回の会議では、地域会議として取り組むべき課題の優先順位をつけてもらったが、今回の勉強会を踏まえ、どちらを先に取り組むのがよいか、また同時に取り組むのがよいか等、各自意見をもち寄り、協議することとした。

＜交通関係の勉強会での質疑（抜粋）＞

発言者	内容
委員	コミュニティ・カーシェアリングで、市として関わっていることは何か。
交通政策課	日本カーシェアリング協会との協定や、既存の交通事業者との調整、豊田市共助交通支援事業で、コミュニティ・カーシェアリングのテスト運行や、本運行に関わる経費の支援を行っている。
委員	コミュニティ・カーシェアリングのような移動支援関係の新しい取り組みを実施したいと考えた場合も交通政策課に話を聞きにいくのがよいか。
交通政策課	そのとおり。
委員	今後もカーシェアリングを広めていく取組みを実施していくか。
交通政策課	カーシェアリングだけで移動支援のすべてをまかなえるとは考えておらず、既存の交通を使うことが大前提。広めていきたいとは考えている。
委員	自治区負担に対する市からの補助はあるか。
交通政策課	豊田市共助交通支援事業で、車両のリース料や保険料、燃料費を対象に補助金を出している。
委員	申請する団体は自治区か。
交通政策課	自治区もちろんだが、任意の団体（５人以上）も可能。
委員	利用のルールについて、距離にかかわらず、１回（片道）５００円か。ドライバーに待ち時間が出る場合はどうするのか。
交通政策課	各団体によってルールは異なるが、水源の場合は、５kmまで１回５００円、以後１kmごとに１００円追加する。ドライバーの待ち時間が４０分以内であれば、１回とし、４０分以上の場合は、ドライバーは一旦戻り迎えにいくので２回とする。
委員	支出を預り金でまかなう場合だと、どれくらいの頻度で利用してもらう必要があるのか。
交通政策課	水源さくら会の例でみると、企業による協賛を除き、約２万円分を預り金で集める必要があるため、月４０回程度の利用が必要。
委員	ドライバーの平均年齢はどのくらいか。
交通政策課	平均は７０歳程度。水源だけでなく、コミュニティ・カーシェアリングが始まった東日本のような地域でも同様。
事務局	朝日丘地区全体あるいは自治区単位など、どの程度の規模感でコミュニティ・カーシェアリングをスタートしていくのがよいのか。
交通政策課	地域の人として互いに知っている、お互いに見える、小さな規模間で実施することを勧める。
委員	コミュニティ・カーシェアリングの目的としては、地域のつながりをつくるといった目的なのか。
交通政策課	目的はそのとおりで、コミュニティの絆を深めることを目的としているが、その一環として移動課題を解決する取り組み。

（終了）